平成 27 年度　地域文化学専攻・比較文化学専攻　学生派遣事業　研究成果レポート

那木加甫

１．事業実施の目的

博士論文を作成のためのデータ収集

２．実施場所

ロシア連邦カルムイク共和国エリスタ市

３．実施期日

平成　27 年　9 月 28 日（月曜日）から　12 月 29 日（火曜日）

４．成果報告

●事業の概要

オイラド・モンゴルはかつて中央ユーラシアにわたる大帝国を建てたが、その政権の崩壊により、彼らの子孫はロシアのイジル河畔から中国東北の大興安嶺までに分散することとなった。現在、この広い地域はロシア、モンゴル、中国といった国家に分割されている。それぞれの地域に暮らすオイラド・モンゴルはマイノリティになり、マジョリティのロシア人やハルハ・モンゴル、漢民族などに同化される傾向にある。しかし、各地域に分散するオイラド・モンゴルはチベット仏教を信仰することで共通している。本研究はこれらオイラド・モンゴルの仏教信仰がいかに成り立っているのか、を解明することを目的とする。

カルムイク人は周知の通り、ソ連時代において 70 年間近く、仏教信仰を禁止され、1940～50 年代にスターリンによる 13 年間のシベリア流刑が行われた歴史がある。にもかかわらず、ソ連が解体されると、彼らはアメリカにいたカルムイクの活仏を本国へ招来し、仏教寺院を再び建設した上、本格的に仏教信仰を復興させた。また、彼らの仏教復興の動きは寺院の建設にとどまらず、カルムイク政府による努力でチベット仏教界における最高の活仏であるダライ・ラマ 14 世と新疆のオイラド・モンゴル世界における最高の活仏であるシャリワン・ゲゲン 14 世などをカルムイクへ招来してきた。さらにカルムイク出身の僧侶を長期にインドやチベットなど仏教界の中心地へ派遣し経典を勉強させたり、あるいは僧侶を短期に新疆の仏教寺院へ派遣し、新疆の仏教界との交流を強化するなどの政策を実行してきた。

今回の調査においては、主にカルムイク人のシベリア流刑に関する基本的データを収集した。具体的には、流刑を経験した老人や流刑地に生まれた老人に対するインタビュー調査と、流刑に関する文書資料の収集という形で行った。なかでも、流刑を経験した人々に対するインタビューを通して、当時の流刑の史実を把握すると同時に、人々は寺院がない流刑地においていかに信仰を実践していたかについて貴重な第一次資料を収集できた。また、現地のカルムイク語で書かれた流刑に関する文書資料のなかにも、流刑当時にカルムイク人の宗教信仰についての記述したものがあり、それらを手に入れることができた。

●本事業の実施によって得られた成果

　ロシア連邦カルムイク共和国の首都エリスタ市において実施した今回の調査は、カルムイクにおける予備調査にあたるものであり、これから実施する正式なフィールドワーク調査において調査対象や調査地の設定などの点で重要な知見となった。特に、今回の調査を通して手に入れたカルムイク人の流刑地における宗教実践に関する第一次資料は、博士論文の問題設定及び分析において重要な部分となりうる。

●本事業について

貴重な調査機会を頂きありがとうございます。